dromes. J Emerg Med. 1989；7：657－662.
9）O'Gorman RB., et al.：Emergency center arteriography in the evaluation of suspected peripheral vascular injuries. Arch Surg. 1984；119：568－573.
10）Pretre R., et al.：Lower limb trauma with injury to the popliteal vessels. J Trauma. 1996；40：595－601.
11）新藤正輝：四肢動脈損傷．救急医学　1993；17：811－814.
12）Starr AJ., et al.：Treatment of femur fracture with associated vascular injury. J Trauma. 1996；40：17－21.
13）高橋文人ほか：閉鎖性骨折に合併する主幹動脈損傷の治療．骨折　1989；11：269－273.

ほっと
ぷらざ

手術器械について思うこと

今年の４月よりメーカーの立ち入りが大幅に制限されるそうである．昔と比べて製品の種類が増え，新製品もどんどん発売されており術場は混乱しそうだ．卒後18年目で，「昔は…」と言えるような歳ではないが，研修医の頃はメーカーの数も少なく，競争も今程ではなく，立会いは余りなかったと記憶している．しかし、最近は，呼ばなくても必ずと言っていいほど立会いに来るため，後輩達はメーカーに頼ることが多く，営業マンに操られている様な場面を目にすることもある．私は他人がいると気になるので立会いは嫌いで来てもらうことは少なく，使い慣れてない器械の使用時は苦労することもある．本来はじっくり器種の特性や道具の使用方法を覚えればいいはずなのだが，昔より製品が多く，さらに後を追うように新製品も出るため実際はなかなか難しい．一昨年，経皮的椎弓根スクリュー刺入の手術開始を前にアメリカで屍体を使ったトレーニングをしてきた．イメージも使い，実際に最後までできたので使用前に非常に参考になった．日本でも同様の試みが始められつつあるが，なかなか簡単にできる状況でないようだ．最近，学会でもワークショップが増えているが，実際に人体に入れるのとは異なる．術前に実際に則したトレーニングができる機会が増えることが望まれる．

市立札幌病院　奥　村　潤一郎